

鹿苑における「奈良の鹿愛護会」の業務状況について

1. 奈良の鹿愛護会の活動目的、活動内容

一般財団法人奈良の鹿愛護会（以下、「愛護会」）は、「天然記念物「奈良のシカ」の保護育成のために、種の保存継承と保護思想の普及を図り、鹿と共生する地域社会づくりの推進に寄与すること」を目的とし、次の8つを柱として活動を行っている（表 1）。

表 1 愛護会の活動内容（出典：愛護会 HP）

活動	内容
(1) 「奈良のシカ」の保護育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生息地内の巡回パトロール ・ 負傷・疾病鹿の救助・救出 ・ 通報等による緊急保護出動 ・ 治療手当及び公園への復帰 ・ 妊娠したメス鹿の一時保護 ・ オス鹿の一時保護及び除角
(2) 保護育成に関する調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生息地内頭数調査・エリア別頭数調査 ・ 身体計測及び個体識別調査 ・ 行動圏調査 ・ 死亡原因の特定調査 ・ 大学、その他研究機関等との協力連携による研究調査 ・ 鹿に関する歴史資料の整理収集、保存
(3) 保護事業のための普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良のシカの魅力や保護について伝える取り組み ・ 鹿苑公開 ・ 特別公開「子鹿公開 ～赤ちゃん鹿大集合！～」 ・ 国の天然記念物「奈良のシカ」保護 ・ 鹿の愛護を広く呼びかける愛護月間(6・11月) ・ 定期情報紙「鹿かわらばん」の発行、その他刊行物への情報発信
(4) 生息環境保全のための活動及び環境教育 鹿と人が共存する地域社会づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿の生態について理解を広げるための広報活動 ・ 鹿と人とのトラブルを未然に防ぐ対策 ・ ゴミのポイ捨てによる鹿の誤飲、事故を防ぐ環境保全活動 ・ 交通事故防止対策 ・ 犬の放し飼い、捨て犬防止の広報活動 ・ エサやり禁止の啓発活動 ・ 鹿に関する歴史資料の整理収集、保存
(5) 生息環境保全のための活動及び環境教育 環境教育・環境学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修・職場体験学習 ・ 奈良公園を訪れる団体を対象にした体験プログラムの提供 ・ 教育機関等を対象としたセミナー、出張講座・講演
(6) 各伝統行事の保存継承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿の角きり ・ 鹿寄せ ・ 鹿まつり
(7) 施設の維持管理	快適な保護環境を提供するために、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の維持管理 ・ 施設の定期的な消毒・清掃 ・ 施設の保守点検・補修・整備 ・ 鹿苑改修計画事業と連携した事業の推進
(8) 諸団体との連携協力・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係する各団体との連携した鹿の保護への協力体制づくりの推進 ・ 会員や支援者による鹿の保護活動への多角的な支援 ・ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2. 組織体制、分掌業務

愛護会は、総務課、保護教育課と事業課に分かれており（図 1）、理事等を除く職員数は令和 6 年 4 月 1 日現在、11 名である。各課における分掌業務を表 2 に示す。保護に関する実働は事業課が担当している。以後の内容は事業課の業務内容について記載する。

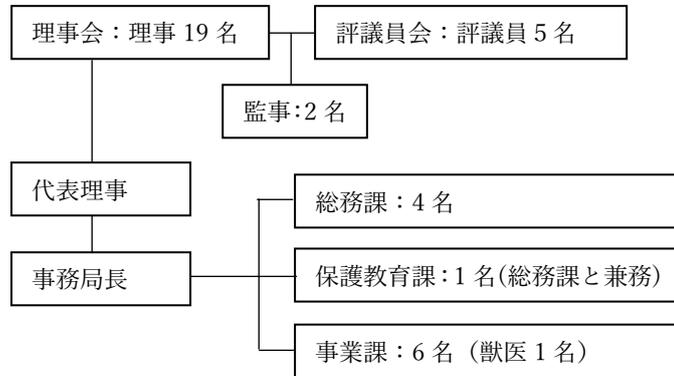


図 1 愛護会の組織図

表 2 愛護会の分掌業務（出典：愛護会資料）

課	職員数	分掌業務
総務課 保護教育課	4	1 総会及び役員会その他の会議に関する事。 2 文書の公印の管守に関する事。 3 事務局の組織及び職員の人事に関する事。 4 契約、渉外に関する事。 5 事業計画並びに予算及び決算に関する事。 6 財産の取得、管理、処分及び会計、経理、庶務に関する事。 7 施設及び備品等の維持管理に関する事。 8 衛生管理に関する事。 9 鹿の環境保全に関する事。 10 調査統計及び広報に関する事。 11 その他の業務で他に属さないこと
事業課	6 (獣医 1 名含)	1 鹿の保護に関する事。 (1) 愛護の啓発 (2) 環境整備 (3) 鹿の死傷事故の防止対策 (4) その他の保護活動 2 鹿害対策に関する事。 (1) 人身事故の防止対策（出産期、発情期等に注意看板設置、捕獲、広報活動等） (2) 農地や市街地の鹿害防止対策（捕獲柵設置や巡回等） 3 鹿の飼育管理及び衛生管理に関する事。 (1) 収容ジカの飼育（給餌、環境保全、衛生管理等） (2) 傷病ジカ、死亡ジカの処置、剖検、焼却等 4 各種行事、事業の企画運営に関する事。 (1) 角切行事、鹿寄せ行事、鹿まつり等の各種行事執行 5 生態調査及び研究に関する事。 (1) 頭数調査、ポイント調査等の企画運営 6 その他鹿の保護育成に関する業務で他に属さないこと。

3. 愛護会の業務量

愛護会の主要な業務について、別紙にその業務量及び職員の負担度について整理した（出典：奈良の鹿愛護会）。その結果、夜間対応業務、秋季の角切り、鹿苑収容個体の飼育、傷病ジカや逸出ジカに対する緊急出動に対する負担が大きかった。

具体的には、業務量（従事時間）は鹿苑内のシカへの「水、餌やり、清掃、退避箇所仮設」が30%以上を占め、最も業務量が多かった。次いで、診療に関する「手術等措置（点滴、外科手術、副え木）」や、「傷病ジカ（収容・パトロール・死体回収）」が10%以上、「逸出ジカ追上（市街地、公園、河川敷等）」が5%程度あった。

一方、職員の負担度は「夜間対応業務（宿直） 治療室搬入、死体回収、通報現場確認、警察等からの電話対応」が最も負担度が高かった。次いで、秋季の発情したオスジカに対する安全対策としての「角ジカ収容・角切り、チップ入れ、解放」、「水、餌やり、清掃、退避箇所仮設」、「傷病ジカ（収容・パトロール・死体回収）」、「逸出ジカ追上（市街地、公園、河川敷等）」「手術等措置（点滴、外科手術、副え木）」の負担度が高かった。

4. 年間スケジュール

愛護会の活動はシカの生態に合わせて行われており、後述の日常業務を行いつつ、シカの出産期、交尾期には保護収容や除角を行う他、仔鹿公開のイベントを開催している。また、公園内のシカに関する異常、公園内外の交通事故や公園外の農業被害についての通報を受け、随時緊急出動を行っている（図 2）。

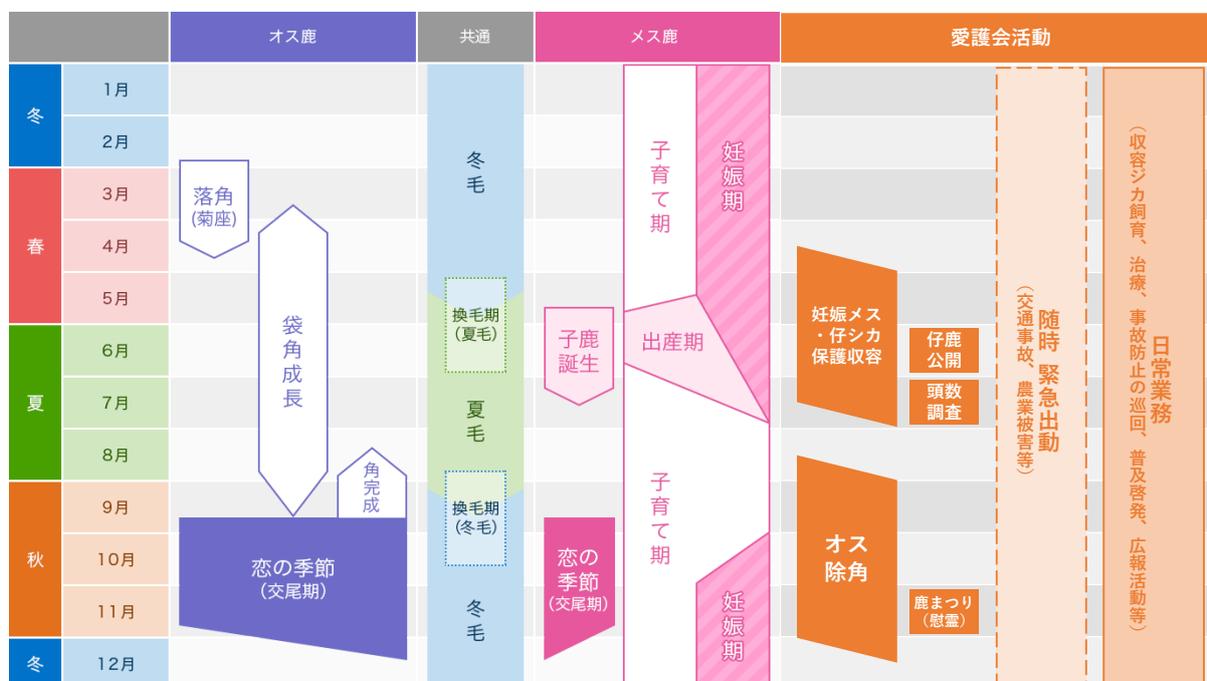


図 2 シカの生態と愛護会の年間スケジュール（出典：愛護会資料に加筆）

5. 一日のスケジュール

愛護会の日常業務は、収容シカの飼育、傷病シカの治療、事故防止の巡回、普及啓発、広報活動、寄付（寄付金や餌）の受取等、多岐にわたる。一日のスケジュール概要を表 3 に示す。

日報には、緊急出動の状況（時刻、場所、通報内容、結果等）、捕獲作業内容（場所、対象、頭数）、収容個体への給餌内容、給餌量、収容頭数、他業務について仔細に記録されている。また、治療記録には個体の初診から経過、処置について記録されている。

表 3 事業課職員の一日のスケジュール概要

事業課職員	獣医
	※獣医は事業課職員としての業務も実施しているが、ここでは獣医にしかできない業務を記載
8:30～ 特別柵の清掃、給餌 10:30～16:00 緊急出動、巡回、普及啓発 等 ※緊急出動は上記以外の時間帯でも随時実施 夕方 特別柵の清掃 以降 日報等書類作成	10:30～12:00 治療 14:45～15:00 治療、世話、解剖 他、カルテ記入、薬剤や医療品の注文、検査依頼、書類作成、ブログ作成、セミナー関連、問い合わせに対するメールでのやりとり等

6. 緊急出動（再掲）

市民からの要請を受けた場合には、愛護会が緊急出動し対応している。過去 5 年間の緊急出動状況（捕獲柵・檻による捕獲に伴う出動を除く）を下表にまとめた。

緊急出動回数は年度ごとに変動しており、最も多かった令和 2（2020）年度は 948 回、最も少なかった令和 5（2023）年度は 231 回であった。

地区ごとの緊急出動回数は C 地区が最も多くなっていた（表 4）。各地区における農地・市街地別では市街地が多く、全体の 90%程度を占めていた（表 5）。緊急出動の内訳は、「追い出し・追い上げ」（市街地に出没したシカを追い出し、奈良公園まで追い上げる）が最も多かった（表 6）。

農地・市街地別では、月ごとでは、農地では年間を通じて緊急出動していたが、市街地では春から夏にかけて緊急出動回数が多くなっていた（図 3）。内訳は、農地では「被害相談」または「捕獲収容」（捕獲柵・檻以外による捕獲）が多く、市街地では「追い出し・追い上げ」が多かった（図 3）。

表 4 各地区への緊急出動回数

年度	出動回数			
	B 地区	C 地区	D 地区	合計
R1	116	226	83	425
R2	239	621	88	948
R3	115	325	78	518
R4	80	282	67	429
R5	29	167	35	231

出典：奈良の鹿愛護会資料

表 5 地区別の農地・市街地への緊急出動回数

年度	B 地区		C 地区		D 地区		合計
	農地	市街地	農地	市街地	農地	市街地	
	R1	5	111	41	185	29	
R2	20	219	34	587	25	63	948
R3	2	113	16	309	27	51	518
R4	6	74	19	263	8	59	429
R5	3	26	16	151	6	29	231

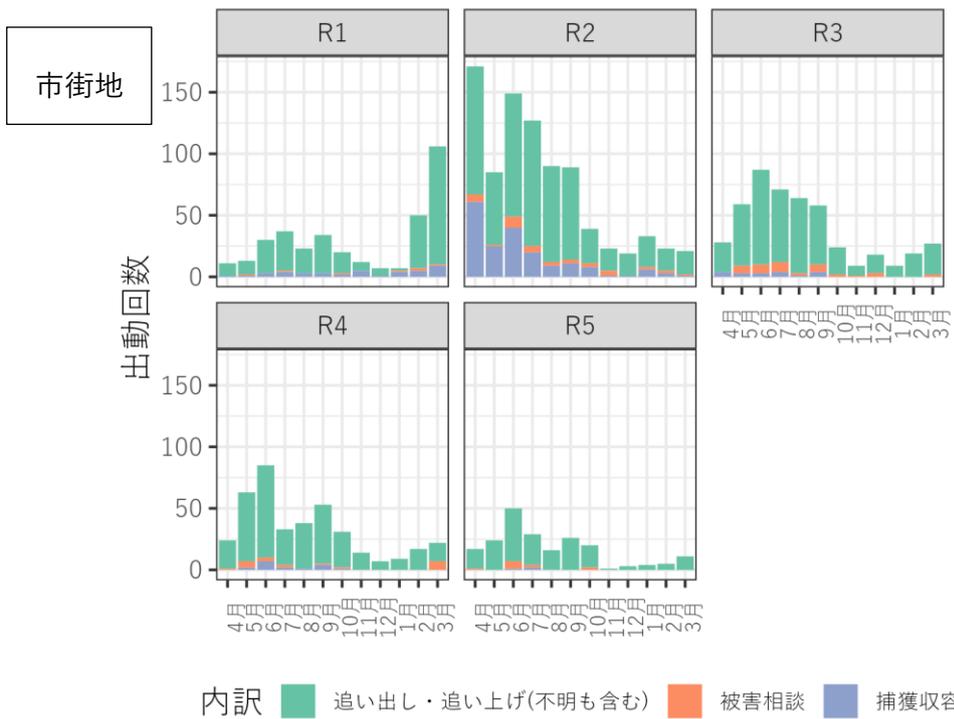
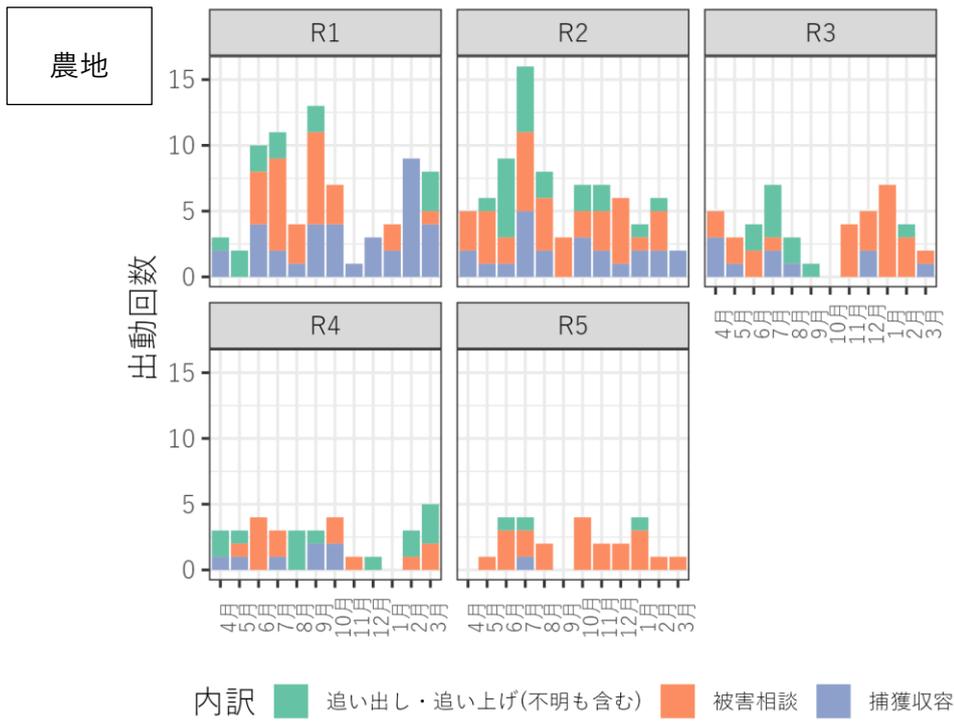
出典：奈良の鹿愛護会資料

表 6 緊急出動の内訳

年度	出動回数			
	追い出し・ 追い上げ (不明も含む)	捕獲収容※	被害相談	合計
R1	314	77	34	425
R2	664	209	75	948
R3	427	29	62	518
R4	372	24	33	429
R5	195	4	32	231

出典：奈良の鹿愛護会資料

※「捕獲収容」は捕獲柵・檻以外による捕獲



※「捕獲収容」は捕獲柵・檻以外による捕獲

図 3 農地・市街地への月ごとの緊急出動回数及び内訳

出典：奈良の鹿愛護会資料

図 4 に令和 5 年度の追い上げ件数を場所別に示した。追い上げ件数は紀寺地区（紀寺団地、紀寺南池、春日自動車学校北）が最も多く 119 件(52%)、JR 奈良駅周辺（菩提川公園、奈良警察署）が 52 件(23%)、法蓮町（油坂、育英高校東、県大北）が 39 件(17%)、奈良町、三条街区公園、高天交差点が 19 件(8%)であった。各範囲において、特に集中している場所が存在している。これは、特定の通報者がいる、シカが人の目にさらされやすい、といった理由である。

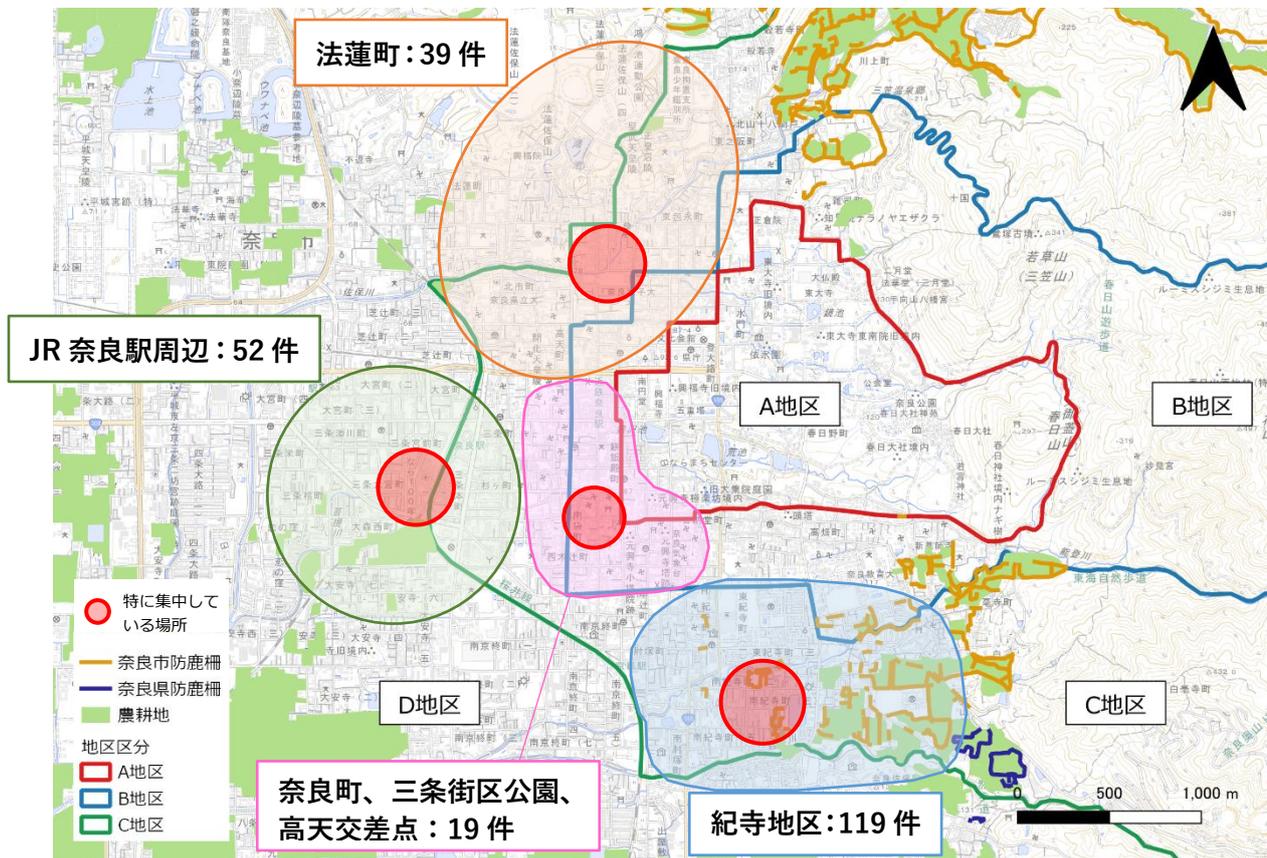


図 4 令和 5 年度の追い上げ件数

出典：奈良の鹿愛護会資料

7. C 地区における捕獲（再掲）

愛護会が把握している捕獲柵・捕獲檻の位置を図 5 に、各捕獲柵・捕獲檻における年度別捕獲数を表 7 に示す。これらの捕獲柵、捕獲檻は農家等が所有、管理しており、シカの捕獲があった場合に愛護会職員が出勤し鹿苑に収容することとなっている。

表 7 において捕獲が数年間ない捕獲柵・捕獲檻については稼働停止している状態である。

捕獲は川上檻 5 号、6 号、8 号及び A 造園檻において多く、特に A 造園檻は 1 箇所にも 10 基（令和 2 年度以前）又は 7 基（令和 3 年度以降）設置しているため特に多い。

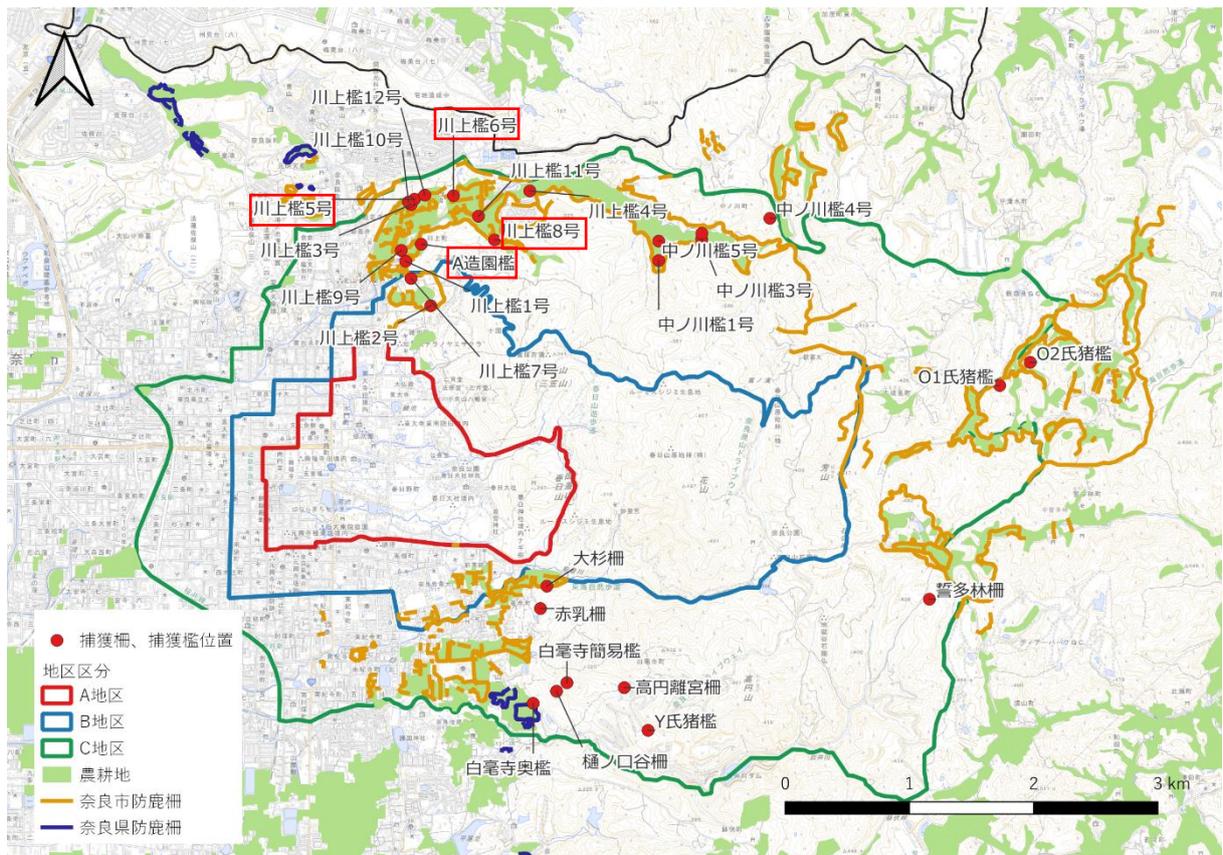


図 5 愛護会が把握している捕獲柵・捕獲檻の位置

出典：奈良の鹿愛護会資料

※これらの捕獲柵、捕獲檻は農家等が所有、管理しており、シカの捕獲があった場合に愛護会職員が出勤し鹿苑に収容する

表 7 各捕獲柵・捕獲檻における年度別捕獲数

地域	No.	檻・柵名	R1	R2	R3	R4	R5	備考
北部	1	川上檻 1号	5	0	0	0	0	
	2	川上檻 2号	0	0	0	0	0	
	3	川上檻 3号	0	0	1	0	0	
	4	川上檻 4号	10	5	15	0	0	
	5	川上檻 5号	10	6	16	5	6	
	6	川上檻 6号	3	4	10	7	6	
	7	川上檻 7号	0	0	0	0	0	
	8	川上檻 8号	1	3	0	3	3	
	9	川上檻 9号	0	0	1	0	0	
	10	川上檻 10号	0	2	0	0	0	
	11	川上檻 11号	0	0	0	0	0	
	12	川上檻 12号	0	0	0	1	0	
	13	A 造園檻	25	73	41	35	8	R2 まで 10 基、R3 以降 7 基
	14	その他	10	6	3	3	-	2 基。R5 撤去
南部	1	大杉柵	0	0	0	0	0	R5 閉鎖
	2	白毫寺簡易檻	0	0	0	0	0	
	3	白毫寺奥檻	0	0	0	0	0	
	4	赤乳柵	9	1	0	0	0	
	5	樋ノ口谷柵	0	0	0	0	0	R5 倒壊
	6	高円離宮柵	0	0	0	0	0	R5 倒壊
	7	愛護会檻 1号	-	-	-	-	2	白毫寺町 1 か所。R6 撤去
東部	1	中ノ川檻 1号	0	0	0	0	0	
	2	中ノ川檻 2号	0	0	0	0	0	
	3	中ノ川檻 3号	0	0	0	0	0	
	4	中ノ川檻 4号	0	0	0	0	0	
	5	中ノ川檻 5号	0	0	0	0	0	
	6	誓多林柵	1	0	0	0	0	
	7	その他	0	0	0	-	-	2 基。R4 撤去

出典：奈良の鹿愛護会資料

※「-」箇所は捕獲柵・捕獲檻を設置していない

※東部、南部の数年間捕獲がない檻は稼働していない。

8. 業務状況における課題

以上のことから、現在の愛護会は非常に少ない職員数のもと、鹿苑内の収容シカの飼養、妊娠メス・シカの保護収容や除角等の多数のシカへの季節的対応、C地区等への緊急出動、追い出し・追い上げによる緊急出動（夜間対応を含む）等を実施し、業務過多の状態となっている。

愛護会の設立趣旨に合致した活動内容となるよう、各項目の優先順位付けや負荷軽減対策が必要と考えられる。